

協議事項

●安曇野市中央図書館

No.	質問	説明
1	バリアフリーのコーナー(バリアフリーサービス)について	現在のバリアフリーサービスを意識した図書館では、視覚障がい者向けの大活字本や朗読CD、録音資料だけではなく、心身等の障がいのため読書が困難な利用者のための資料を用意されていると思います。本市の図書館でも、布絵本や触って楽しむ絵本など触った感覚で楽しめるような資料の整備を進める予定です。貴館では、どのような資料をどのくらい用意されていますか。

松本市中央図書館	松本市では布の絵本や触って楽しむ絵本は一般には貸出しておらず、書架にも出していません。壊れたり汚れやすいもの、パーツがなくなりやすいものも多く、衛生面でも心配があるためです。ただし、参考資料としての所蔵は数点あるので、展示等に利用をしています。また、宅配図書の利用者や団体貸出利用者の中には視覚、精神障害のある方がいらっしゃるの、専用に布の絵本、触って楽しむ絵本を各10点ほど所蔵しており、一部の触って楽しむえほんは貸出しています。
塩尻市立図書館	大活字本(一般約2,500冊、児童約180冊) 朗読CD(読み物700点) 点字本、点字雑誌(約550冊) 点字絵本、さわる絵本、布絵本(27冊) LLブック(6冊) デイジー(約200点) マルチメディアデイジー(約300タイトル) 寄託の聴覚障害者用の字幕入りDVD
市立大町図書館	大活字本1854冊・朗読テープ(カセットテープ)1763本・点字資料:646冊・さわる絵本・点字絵本:12冊・DAISY15件です。 DAISYの再生機器が1台ありますが、利用者がおらず、活用できておりません。
池田町図書館	カウンター横と児童室に、しかけ絵本や布絵本、点字絵本、木のおもちゃなどを展示しており、子どもも大人も、自由にさわって楽しんでいます。 布絵本、さわる絵本: 20冊 点字絵本: 9冊 (冊数は平成29年12月現在。これらは館内資料としております。)
山形村図書館	大活字本109冊 朗読CD20点 点字絵本10冊 障がい者対応DVD10点 県のコミュニティ助成事業に申請しています。通れば次年度障がい者対応DVD 布絵本 点字付きさわる絵本 LLブックを購入予定。
白馬村図書館	大活字本97冊・朗読CD32枚・さわる絵本7冊 活発に利用されているとは言い難いです。
松川村図書館	・大活字本→433冊 ・LLブック→10冊 ・点字付き絵本→12冊 ・ピクトグラム入り絵本→1冊 ・リーディングトラックの貸し出しも行なっています。(5本) (読みたい行に集中して読めるように、両隣の行の文字を隠して読み進める読書補助器具)
小谷村図書館	大活字本:25タイトル LLブック:1冊 点字絵本・触る絵本:10冊
公民館図書室 おみ図書館	大活字本が20タイトル。その他の資料についてはまったく整備させていません。視聴覚資料等を今後少しずつ充実させていきたいと考えています。
生坂村図書室	朗読CDと点字絵本・布絵本が数点ある程度です。
木曾町図書館	点字つき絵本、さわる本、バリアフリー絵本を50点ほど所蔵しています。まだまだ不足していると感じています。学校や保健福祉と連携し、どのような本が必要か調査段階です。

村立朝日村図書館	大活字本65冊、点字絵本8冊を所蔵しています。
筑北村図書館	大活字本137冊、点字絵本・触る絵本は数点あるのみです。
2	郷土資料の収集について 本市の図書館では、安曇野市に関係する資料については、少なくとも保存用と貸出用の2冊を受け入れています。そのほか県内に関係する地域資料はなるべく購入するようにはしていますが、郷土資料とするかどうかで迷うこともしばしばあります。 現在、下記の例のような事項が検討対象となっています。貴館では、どのような範囲で収集していますか。 例1) 県内出身者であるが内容は全く県内のこととは関係のない内容(分野)の資料 例2) 県内在住者であったが、他県へ転居された人物の著書
松本市中央図書館	松本市でも、市内出身者、在住者の資料は積極的に収集しておりますが、郷土資料とするかは内容によって判断しており、全てを郷土資料にしていません。県内出身者、在住者も同様に、全て内容で判断をしています。松本市や長野県に関わる内容でなければ、郷土資料ではなく、一般図書にしています。
塩尻市立図書館	1) 市内出身であれば積極的に収集を行いますが、県内出身者で内容が郷土に関連がない資料については、通常の選書方針に沿って収集を行います。 2) 市内在住であれば、積極的な収集を行いますが、市外へ転居された方については、郷土に関連の無い資料は通常の選書方針に沿って収集を行います。 ※歴史上など、市内で有名な人物等については郷土に関連の無い資料も収集を行っています。(例:菅江真澄など)
市立大町図書館	例1、2ともに地域資料とはしておりません。大町市内の作家は、他県に移住しても郷土の作家として扱っています。
池田町図書館	明確な基準は設けておりませんが、「長野県」と主に中信地区に関連する資料を優先的に収集し、他の地区については予算の関係上、やや手薄となっています。 また、小説や随筆については、長野県ゆかりの作家として、県内の大学を卒業した作家等についても可能な範囲で購入しています。 潤沢な予算があるわけではないので、県内の他の図書館に所蔵されていれば購入をあきらめるということもしばしばです。
山形村図書館	著者ではなく内容で判断しています
白馬村図書館	主に大北地域を意識して収集しますので、全県対象だと参考にならないと思いますが・・・例1・2の場合は、郷土資料としての購入はしないと思います。寄贈いただいた場合、受け入れたとしても郷土資料にはしないです。出身・在住よりも、内容で郷土資料扱いにするかどうか、となります。
松川村図書館	近隣の市町村関連の資料は入れています。 例1) 例2) のような資料は敢えて受け入れていませんが、寄贈の場合は受け入れています。
小谷村図書館	明確な基準は設けておりませんが、例1・2については郷土資料としての収集は行いません。
公民館図書室 おみ図書館	保存スペースがないため、積極的には村内出身者以外の資料は収集していません。
生坂村図書室	郷土資料を十分に揃えられていないのが現状ですが、村出身、村にゆかりのある方の著書に関しては、現住所を問わず収集するようにしています。

木曾町図書館	当館は規模も小さいため、例1、2とも所蔵対象としない場合もあります。	
村立朝日村図書館	著者が朝日村出身者の場合は、内容に関係なく収集し、郷土資料扱いで「朝日村コーナー」に配架しています。 それ以外は著者が県内出身者または在住者であるという理由での収集はしていません。	
筑北村図書館	筑北村に関する資料は出身地・在住を問わずできるだけ購入しています。	
	3	県内でもいくつかの自治体で生涯学習や学校と連携し「家庭読書の日」等を定めて読書推進をされていますが、「家庭読書の日」や「ノーテレビデー」のような日を制定する予定やお考えはおありでしょうか。
松本市中央図書館	現時点で制定の予定はないですが、学都松本子ども読書活動計画の見直しのなかで検討予定です。	
塩尻市立図書館	「早ね早おき朝ごはん・どくしょ」の市民運動を市で取り組んでいます。日付の制定などについては、未定です。	
池田町図書館	当町では、毎月、防災行政無線で、『第三日曜日は、家庭の日、そして「ノーテレビデー」です。』というアナウンスをしています。戸外で体を動かして遊ぼう、と呼びかけており、読書と結びつけるのは難しそうです。 町内の小中学校三校のPTA連合会主体で、『親子でメディア利用を考える日』を年3回実施しています。こちらは、協力要請をいただいているので、行事等を検討しています。	
公民館図書室 おみ図書館	今は行っていませんが、小学校では実施しているので、図書館もそれに合わせて設定してもよいかもしれません。	
生坂村図書室	家庭読書が目的ではありませんが、小学校主体で、『アウトメディアチャレンジデー』(ゲームだけ、テレビだけ、電子メディア系全て等、各家庭で達成できそうなレベルを決めて実施)の日を毎月設けています。その日は、「今日、アウトメディアだから」と、図書室で本を借りて行く児童が数名います。中には、保護者用の本を借りて行く子もいます。	
以下他館、実施予定なし。		

●白馬村図書館

No.	質問	説明
1	「飲み物」についての館内掲示	館内での「飲み物」について、どのような表示(張り紙)をしているか知りたいです。また、こぼれたり、湯気がただよって、ちょっと匂いが…というような事例に遭遇したことはありますか。
松本市中央図書館	飲み物については、「蓋付きの容器に入ったものであれば可」としています。具体的には、「水分補給のために、ふたのしっかりと閉まるペットボトルや水筒に入った飲み物はお飲みいただけます」と記載をしています。以前は飲食が可能なスペース以外では、飲み物も禁止していましたが、熱中症や脱水症状の防止の意味もあり、変更になりました。今のところ、閲覧席等でこぼれたり、という事例はほとんどありません。	
塩尻市立図書館	図書館内は飲食禁止をお願いをしています。 館内掲示は主に机の上に利用方法等を記載した物を置いてあります。 ※別紙本館2階キャレル席の見本	
市立大町図書館	飲み物は館内ではくつろぎコーナーと学習室(ふたのついた飲み物のみ)では飲んでよいとしています。上記のような事例はありません。	

安曇野市 中央図書館	閲覧席での禁止事項として、「おしゃべりなどの迷惑行為」「パソコン等の使用」「電源をとる行為」とともに「飲食」につきましても、禁止のマークを各席に貼り注意喚起しています。ペットボトルや、マイボトルも机に出ている場合は、バックに入れていただくようお願いしていますので、一切の飲食を館内では禁止させていただいております。
池田町図書館	新しい図書館では、飲み物のみ 可にする予定ですが、現在は飲食禁止にしています。閲覧室の出入り口の上方に、『飲食禁止』とある他、大机の上に注意を促す文を表示しています。
山形村図書館	「フタつきの飲料は可」ということを利用案内に掲載しているだけで、館内表示はありません。見かけたら注意します。
松川村図書館	特に掲示はしていませんが、ペットボトルやステンレスボトルなどのフタ付きの容器に入っているものは可。フタ付きでないものをお持ちの方には、その都度注意しています。
小谷村図書館	「館内での飲食はご遠慮ください。」とテーブルに表記しています。事例ですが、飲み物をこぼしてご自分で拭かれたようですが、テーブルにベタつきが残っていたことがあります。
公民館図書室 おみ図書館	「館内での飲食はお断りします。ただし、栓のできるペットボトルや水筒はご使用いただけます。」の表示を絵入りで示しています。 夏休み中は閲覧机一部をパーテーションで仕切って飲食コーナーに充てていますが、気になるようなひどい事例は今のところありません。
生坂村図書室	館内は「飲食禁止」としています。※小中学生の利用が多いので、そのかわりではないのですが、床続きの場所に飲食スペースを設けています。
木曾町図書館	館内にカフェがあるため、飲み物は許可しています。カフェからのにおい(コーヒー豆のでがらしを乾かすにおい)が気になることはあります。
村立朝日村図書館	館内表示はしていません。ペットボトルや直接飲めるタイプの水筒を使っておられるためか、トラブルもありません。
筑北村図書館	館内の決められたスペースでの飲食、またペットボトルの持込みは許可しています。

●おみ公民館図書室

No.	質問	説明
1	資料の日焼け防止策について	開架室の窓が大きく紫外線対策が十分でないため、背のタイトル文字が薄れているものが少なからずあります。 ① 全体の状態がよく背の日焼けだけがひどい場合、テプラで打ち直す等の対処をしています。他館ではどうされていますか。 ② 窓にフィルムを貼る紫外線対策を考えていますが、費用がかかります。なにかよい工夫がありましたら教えてください。
松本市中央図書館		①松本市でもタイトル等が消えかかってしまったものは、テプラで打ち直して貼りつけています。あまりひどい場合は、買い直し等も可能なかぎりは行っています。 ②節電との兼ね合いになりますが、日差しの強いときにはブラインドを閉めるようにしています。逆に、曇りの時などは開けています。夏は、暑さ対策も兼ねて葎簀を立てたりしています。
塩尻市立図書館		1)は同じく、背の日焼けでタイトルが見えにくくなった資料についてはテプラで打ち直しています。 2)当館でもガラスにフィルムを貼って対策を行っています。(約10年で貼り換えの必要あり)そのほか、ロールカーテンで本に直射日光が当たらないように調整、ブッカーを紫外線カットに変更するなど。

市立大町図書館	① 同様の対策を行っています。 ② 他館の回答を参考にさせていただきます。
安曇野市中央図書館	市内図書館は、おかげさまで新しい館が多いので窓はほとんどUVカットの対応になっています。直射日光が当たる部分があれば、ブラインドやカーテンを一部しめておくしか対応策がありません。
池田町図書館	当館も、夏の厳しい西陽がよく当たります。冬場は南側の大きな窓から陽がさしこむので、カーテンやブラインドで日よけをしています。 ① 背の文字のみ退色してしまったら、できるだけ同じようなフォント、色で印刷して、両面テープで貼り、コートをかけています。 ② フィルムも万能ではないように聞いています。良い方法があれば知りたいです。
山形村図書館	① テプラで打ち直しています。児童書は表紙と中身が一緒の場合、表紙を外してブックカバーをかけますが、背表紙が赤系色の時は色あせたら外せるようにつけたままに寿命を延ばします。
白馬村図書館	① 同じく。(できれば)元の文字と似たフォントで打ち直して、貼りつけています ② 本の装備に使うコートフィルムを、UVカットを謳ったものを使うこと・窓のブラインドを開けないこと、くらいです。
松川村図書館	① カバーを外しても表紙のデザインが同じであれば、日に焼けたカバーからバーコードと背ラベルを剥がして貼り替えています。 ② 窓は、天気のいい日は直接日差しが当たらないように、ロールカーテンを下ろしています。
小谷村図書館	カバーのある資料は、取り外して再度ブックコートをかけ直しています。
生坂村図書室	① 当館も同様です。できるだけ元タイトルと同じ字体・色でテプラを貼っています。② 当館の窓はブラインドなのですが、ブラインドを下ろせない非常口からの西日がひどかったので、非常口を開閉しても影響のないように、窓のサイズに合わせた薄手の布(余り布)を、窓枠に貼り付けました。ただ、館内全面となると、、、大変そうですね。
木曾町図書館	① 背タイトルが薄れてしまっていれば、当館もテプラで打ち直します。 ② 窓は紫外線防止フィルムを貼り、日がさしてくればロールカーテンを下ろしていますが、日焼けは免れていません。
村立朝日村図書館	① 背表紙のヤケには特別対処していません。 ② 窓辺に本棚を設置しているのですが、その場所には外から見たとき絵が見えるようにイラストのある厚紙を貼って日差しを遮っています。
筑北村図書館	① 当館も同じくテプラで打ち直しています。 ② 当館の一番大きい窓にはフィルムが貼ってあるようです。

●生坂村公民館図書室

No.	質問	説明
1	大活字本について	大活字本で、長年人気がある(継続して貸出がある)というタイトルがありましたら教えてください。
松本市中央図書館	池波正太郎、松本清張はタイトルを問わず人気があります。長編のシリーズより短編集や上下で完結のものが好まれる傾向にあり、宅配図書でも短編集のリクエストが多いです。	
塩尻市立図書館	<ul style="list-style-type: none"> 池波正太郎「鬼平犯科帳」 著者ですが 藤沢周平 乃南アサ 平岩弓枝 などの本が多く読まれています。 	

市立大町図書館	池波正太郎さんの本は人気です。ここ5年間で大活字本を増やしているので、長年といえるかどうか不明です。
安曇野市中央図書館	小説は、通常でもよく読まれている作家のものでしたら頻繁に貸出されています。ジャンルとしては、時代物がご年配者に人気です。
池田町図書館	現状としては、大活字本の収集は行っておりません。新館に向けて選書中です。
山形村図書館	1. 万華鏡 遠藤周作 2. 蝉しぐれ 藤沢周平 3. 母 三浦綾子 4. 天涯の花 宮尾登美子 5. 牛久沼のほとり 住井すえ が当館のベストリーダーです。小説がよく読まれています。
白馬村図書館	大活字本自体が、それほど貸出がないです。所蔵の冊数も少ないので、はじから全部お読みになったかたがいらっしゃいました。
松川村図書館	『幕末の尼將軍一篤姫』 童門冬二/著、『思い出ランプ』 向田邦子/著、『信長と秀吉と家康』 池波正太郎/著などが多く貸出しされています。
小谷村図書館	宮部みゆきさん・東野圭吾さんは大活字でも人気です。
公民館図書室 おみ図書館	最近そろえ始めたところで、当館も教えていただけるとありがたいです。
木曾町図書館	「あの世からのことづて 私の遠野物語」(松谷みよ子) 「隠し剣狐影抄」(藤沢周平) 「感動する脳」(茂木健一郎) 「他力」(五木寛之) 「短歌をよむ」(俵万智) 「冥途のお客」(佐藤愛子)
村立朝日村図書館	何故か大活字本の利用が少ないので、当館も人気のものを教えていただけたらありがたいです。
筑北村図書館	貸出冊数は大変少ないです。今回を参考にさせていただきます。

2	雑誌コーナー等のイスについて	おススメ、または高齢者がよく座っているなあという印象のあるスツールや椅子がありましたら、どういった形状・素材のものか、またメーカー等教えてください。
---	----------------	--

松本市中央図書館	座面の低いものは座るのも立つのも難しいようで、あまり座っていない印象です。手すりのついているものは比較的好まれているように見受けられます。
塩尻市立図書館	・肘掛のある(立ち上がりやすい)、布などで柔らかい(固くない、冷たくない)椅子を好んでいる高齢者が多いと思います。 ・椅子の違いもありますが、実際には設置している場所で利用する方が多いです。
市立大町図書館	特にありません。
安曇野市中央図書館	中央館の雑誌、新聞が置いておあるスペース(ブラウジング)は、ソファーが16席置かれており、ゆったりくつろぎながら読んでいただくためのスペースになっています。深く腰がかけられ横幅もゆったりしており、肘掛け部分は木製です。新聞は、机上で開いて閲覧する場面が多いので、ソファーより普通のいすの方がよいと思います。

池田町図書館	雑誌コーナーには、3人～4人掛けのソファが置いてあるので、そちらで読んでおられる方が殆どです。 新聞は、閲覧室の6人用の大机で広げて読む方も。どちらのイスも、開館当初からの備品で、メーカー等は不明です。
山形村図書館	体の不自由な方が、「ひじ掛けのある椅子は立ち上がる時に楽だ」とおっしゃっていました。
白馬村図書館	直接の回答にはなりません・・・以前、海外の図書館の紹介を見たときに、椅子のデザインがそろっていないくて(素材・形・大きさがバラバラ)、各自が好きなものに座っていました。管理の事を考えるとたいへんですが、ユニークな工夫だと思いました。 当館の状況で言うと、館内の利用者用の椅子は2種類です。本体が木製で、布張りです。シミ・汚れが洗えないので、洗える素材とか、カバーを付けられるような椅子だったらよかったと思っています。
松川村図書館	既存メーカー品ではなく、家具工房の手作り品のリクライニングチェアを3脚、窓際に置いてあります。高齢の方がゆったりくつろいでいるのをよく見かけます。
小谷村図書館	雑誌コーナーに書架との一体型ソファを設置しています。幅広い年代の方がご利用なさっています。
公民館図書室 おみ図書館	選択するほどの設備があるわけではないので、なんとも言えません。図書館用の机・椅子以外に、深く座れるソファがあります。
木曾町図書館	ひかなくてもすぐに座れる位置にある椅子、ベンチなどによく座っておられます。座面が大きいほうがよく、高すぎず低すぎない椅子がお好みようです。
村立朝日村図書館	木製、布張り、背もたれ付きの椅子を使っています。 長時間滞在する高齢者がいないのですが、椅子が原因だったのでしょうか？！
筑北村図書館	雑誌コーナー近くに長椅子が置いてある程度で、あまり高齢者への配慮とは言い難いです。